

**地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)**

平成28年2月25日

九州運輸局

評価対象事業名：地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		②事業 実施の 適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
中間市地域公共交通会議	<p>中間市地域公共交通網形成計画等策定業務 【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域特性と公共交通の現状 ・市民の利用実態やニーズ把握調査 ・公共交通に関する課題整理 ・将来構想の検討 ・地域公共交通網形成計画等のとりまとめ ・協議会開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の資料や交通事業者からのヒアリングにより公共交通の現状を整理・分析を行った。 ・市民アンケート調査やバス停でのヒアリング調査を実施し、利用実態や市民ニーズの把握に努め、多様な交通モードがあるにもかかわらず、乗継ぎがなされていない状況が判明した。 ・公共交通の現状及び、市民の利用実態などから、4つの課題を取り上げ、その対応策及び将来に向けた方策などの検討を行い、今後の交通会議の検討を経て、最終的に地域公共交通網形成計画としてとりまとめを行う。 	A	<p>課題分析により4つの課題が浮き彫りとなった。課題は①中間市西部の公共交通空白地への対策、②中間市東部の公共交通不便地への対策検討、③西鉄バス中間線をはじめとする路線バスの利用促進、④公共交通ネットワークとしての利便性向上による利用促進である。</p> <p>将来に向けた方策としては、3つの方策を検討している。方策①公共交通不便地の解消、方策②中間市公共交通ネットワークの強化、方策③中間市の交通まちづくりに対する市民の意識向上である。</p> <p>方策①では、交通不便地に対し、新たな公共交通サービスを検討し、不便地の解消をめざすこととする。方策②では、コンパクトな市域の中で鉄道やバスなど多様な交通モードがあることを生かし、乗継環境等の向上等によって公共交通の利用促進を図り、ネットワークの強化をめざすこととする。方策③では、利用者が必要となる公共交通に関する情報の提供を進め、市の交通まちづくりに関する市民の理解を求めることとする。</p> <p>なお、新しい地域公共交通の導入では、平成28年度に引き続き、平成29年度確保維持事業(地域内フィーダー系統)の活用を見込んでいる。</p>	<p>調査結果に基づく分析は慎重に行うことが肝要。協議会においては、都市計画等との調和を図り、まちづくりや観光振興等と連携した最適な公共交通網の形成の案を検討していくことが望ましい。</p> <p>単に数字だけで判断するのではなく、実際の利用者の生の意向を踏まえると共に、まちのありか方等を踏まえた望ましい旅客流動の将来像まで考えて交通網を再編することが望ましい。</p>	

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		②事業 実施の 適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
北九州市環境 首都総合交通 戦略推進連絡 会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①都市集約化に伴う公共交通への影響分析 <ul style="list-style-type: none"> ・現況運行状況、将来人口動向を見据えた公共交通ネットワークの再検証（公共交通拠点、公共交通軸の設定・検証） ・立地適正化計画と連携した、公共交通網、目標の設定 ②市内公共交通網の効率的見直し案の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通網を維持していくための施策検討 ・バス路線維持のための再編を視野に入れた方策の検討 ③協議会開催 <ul style="list-style-type: none"> ・計画策定のための議論をする協議会を開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来維持していく公共交通ネットワークを示し、各主体が一体的に取り組む維持していくこととした ・立地適正化計画と連携した、公共交通ネットワーク、将来目標値を設定した。公共交通軸の沿線に居住誘導区域を設定し、沿線人口密度の低下を抑制することで公共交通利用者を確保するもの。 ・これまで総合交通戦略で取り組んできた施策を継続実施し、事業内容を充実させ展開させることとした ・主な取り組みとして、地域密着型バスネットワークの提供を進めることとした。都心部の過剰な輸送力を周辺部分に分散させ効率化を図るとともに、地域の実情に応じた輸送サービスを提供するもの ・今後、住民説明会等を経て、年度内に素案をとりまとめる 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、住民説明会、関係団体説明会を実施し、年度内に素案作成、3月末に議会報告 ・年度明けの5月にパブコメを実施、6月の議会報告を経て、平成28年7月の計画公表の予定 ・平成28年度に、地域公共交通再編実施計画を策定予定 	<p>調査結果に基づく分析は慎重に行うことが肝要。協議会においては、都市計画等との調和を図り、まちづくりや観光振興等と連携した最適な公共交通網の形成の案を検討していくことが望ましい。</p> <p>単に数字だけで判断するのではなく、実際の利用者の生の意向を踏まえると共に、まちのありか方等を踏まえた望ましい旅客流動の将来像まで考えて交通網を再編することが望ましい。</p>	

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		②事業 実施の 適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
豊前市地域公共交通会議	<p>(1) 豊前市における地域特性と公共交通の現状と課題の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ①地域特性の把握 ②公共交通の現状把握 ③豊前市の将来像に対する地域公共交通の役割 <p>●豊前市の地域特性を整理し、また豊前市バスを中心とした公共交通の現状を把握できた。また、人口分布から見た交通空白地域の整理を行い、今後の路線再編の基礎が出来た。その他路線別利用者数、バス停別利用者数等を整理し、問題点等が見えてきた。</p> <p>(2) 関係機関ヒアリング調査</p> <p>●他の交通事業者ヒアリングを行い、それぞれが抱える問題点、また将来に対する事業者の意向等が確認できた。併せて、利用者と直接に接している運転手にヒアリングを行い、運転手からみた課題、今後の意向等の意見が出された。</p> <p>(3) 市民の利用実態やニーズ把握調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ①市民アンケート調査(約2,071件) ②利用者ニーズ調査 <p>●公共交通に関しては初めてとなった市民アンケート調査では、回収率52%と良い結果であった。また、JR利用者、バス利用者に直接聞き取り調査を行うなど、今後のまちづくりのために地域公共交通が果たすべき役割、課題等が見えてきた。その他、131自治会長のアンケートの実施、特に病院等市内事業者のアンケートにより送迎、宅配サービスの状況や他の公共交通機関との連携意向などの結果を今後の施策に生かしたいと考えている。</p> <p>(3) 豊前市の公共交通に関する課題整理</p> <p>●各種アンケートを踏まえ、豊前市の課題が整理できている。</p> <p>(4) 実証運行の立案・分析</p> <p>●市民アンケート等を踏まえ、人口分布を基に3地区の交通空白地域を選定、かつ需要の高い地域を選定し、2月8日より2週間、タクシー車両を利用した予約乗合型デマンドタクシーの試験運行を予定している。</p> <p>現在までに各地域の区長と連携し、各地域ごとの説明会の開催、また区長の協力により移動手段を持たない方への直接説明、また数年後に不便となる方など約160名が事前に登録されている。予約者には、別途予約方法の説明会、個別訪問により周知を図っており、登録者には、終了後全員にアンケートをお願いしている。来年以降も再編に向けた試験運行の計画を考えている。</p> <p>(5) 将来構想の提案</p> <p>(6) 地域公共交通網形成計画の作成</p> <p>●以上の結果を踏まえ、豊前市の公共交通の将来構想と地域公共交通網形成計画の策定がなされると考える。</p>	A	<p>●次回協議会において、素案審議予定。</p> <p>●前回では、各種アンケート調査の結果、乗合やクシーの概略等の承認を得ている。</p> <p>●実証運行の結果、アンケート結果については、最終会議で報告予定。</p>	<p>調査結果に基づく分析は慎重に行うことが肝要。協議会においては、都市計画等との調和を図り、まちづくりや観光振興等と連携した最適な公共交通網の形成の案を検討していくことが望ましい。</p> <p>単に数字だけで判断するのではなく、実際の利用者の生の意向を踏まえると共に、まちのありか方等を踏まえた望ましい旅客流動の将来像まで考えて交通網を再編することが望ましい。</p>	

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		②事業 実施の 適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
福岡市(能古) 航路改善協議会	<p>福岡市(能古)航路改善計画策定調査業務</p> <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該航路に関わる現況調査 ・能古住民及び当該利用者の意向調査 ・航路診断 ・経営診断 ・航路経営の改善策の検討 ・協議会開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の資料やヒアリングにより能古航路に関わる現状の整理・分析を行った。 ・能古島民及び能古航路利用者のアンケート調査を実施し、利用実態や市民ニーズの把握に努め、様々な要望や意見を把握することができた。 ・航路診断及び経営診断を実施し、航路市場の成長性の課題や慢性的な経営赤字を解消するための改善策等の検討を行った。 ・今後、第3回目の協議会の検討を経て、中長期的展望にたった福岡市(能古)航路改善計画としてとりまとめを行う。 	A	<p>今回策定する「能古航路改善計画」に基づき、本航路の持続的で安定的な運航を確保するために「離島航路運営費補助金」申請を行う予定です。</p>	<p>地域内フィーダー系統の円滑な運行に向け、生活交通確保維持改善計画計画の策定に取組まれたい。その際、公共交通機関による移動が生活の維持の重大なファクターとなっている者が移動したいところに移動できるよう十分な配慮が必要であることから、サービス提供側においては公共交通機関の実態を肌で感じた上で計画をされることが望ましい。</p>	

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		②事業 実施の 適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
吉野ヶ里町地 域公共交通活 性化協議会	<p>事業内容： 生活交通路線について、地域住民の利用実態等について調査し、吉野ヶ里町における持続可能な地域公共交通網の形成に資する地域公共交通の活性化及び再生の推進を目的とした地域公共交通網形成計画を策定する。</p> <p>結果概要： 高齢者へのアンケート調査の結果、外出の主な目的地として、商業施設、医療機関、金融機関、公共施設が挙げられた。また、外出時の交通手段として、コミュニティバスを利用していない人のうち、約3割が、自分以外の運転する自動車を利用していた。併せて、不満解消後にコミュニティバスを利用する人の割合については、約3割であった。</p>	A	<p>調査結果を受けた計画策定の方針： コミュニティバスを利用していない人のうち約3割は自分以外の運転する自動車に同乗しており、路線の再編より利用が見込める。そのため、外出の主な目的地と回答のあった施設へのアクセス向上を目的として、コミュニティバス路線の見直し及びデマンドタクシーの試験運行を実施する。また、不満解消後のコミュニティバス利用意向のある人の割合が低いため、わかりやすいバスマップの作成等、利用促進を図る。</p>	<p>調査結果に基づく分析は慎重に行うことが肝要。協議会においては、都市計画等との調和を図り、まちづくりや観光振興等と連携した最適な公共交通網の形成の案を検討していくことが望ましい。</p> <p>単に数字だけで判断するのではなく、実際の利用者の生の意向を踏まえると共に、まちのありか方等を踏まえた望ましい旅客流動の将来像まで考えて交通網を再編することが望ましい。</p>	

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		②事業 実施の 適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
上峰町地域公共交通活性化協議会	<p>事業内容： 町内の地域概況や公共交通機関の状況等についての現状を把握するとともに、町民の移動需要等を把握し、持続的な公共交通として地域に定着させるための地域公共交通網形成計画を策定する。</p> <p>結果概要： 高齢者等へのアンケート調査、乗降調査、住民との意見交換会等の結果、外出の主な目的地として、商業施設、医療機関、公共施設等が挙げられた。コミュニティバスは無くてはならないものとの認識はあるが、バス停までの距離やバスの時間が合わなかったりとの理由で利用していないとの声も多く存在した。</p>	A	<p>調査結果を受けた計画策定の方針： コミュニティバスを利用していない理由として、バス停までの距離やバスの時間が目的の時間に合わない等が多かったため、コミュニティバス路線、バス停、ダイヤの見直し等を図る。また、コミュニティバスの周知のために、わかりやすい路線図等の作成をおこない、利用促進を図る。</p>	<p>調査結果に基づく分析は慎重に行うことが肝要。協議会においては、都市計画等との調和を図り、まちづくりや観光振興等と連携した最適な公共交通網の形成の案を検討していくことが望ましい。</p> <p>単に数字だけで判断するのではなく、実際の利用者の生の意向を踏まえると共に、まちのありか方等を踏まえた望ましい旅客流動の将来像まで考えて交通網を再編することが望ましい。</p>	

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		②事業 実施の 適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
新幹線西九州 ルート県南地 域活性化協議 会	地域公共交通網形成計画の策定のための公共交通に関する調査、観光客の移動特性、ニーズの把握	A	<ul style="list-style-type: none"> 観光周遊拠点を交通結節点とした主要バスの再編 観光客に対する公共交通機関の利便性向上を図ることで、これを地域住民の広域的な移動にもつなげる。 	<p>調査結果に基づく分析は慎重に行うことが肝要。協議会においては、都市計画等との調和を図り、まちづくりや観光振興等と連携した最適な地域公共交通網形成計画(案)を検討していくことが望ましい。</p> <p>広域な計画についても、幹線や支線を網羅的に捉えた上で公共交通網を形成することが肝要である。</p>	

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		②事業 実施の 適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
大村市地域公共交通会議	地域公共交通網形成計画の策定のための利用調査・分析、今後、大村市が目指す市方と公共交通網の担う役割等を検討	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新幹線開業をはじめとする今後のまちづくりについて、「将来の姿と方向性」「公共交通運方針」としてまとめている。 ・平成30年を目処に、網形成計画の変更と併せて、策定の予定としている。 	<p>調査結果に基づく分析は慎重に行うことが肝要。協議会においては、都市計画等との調和を図り、まちづくりや観光振興等と連携した最適な地域公共交通網形成計画(案)を検討していくことが望ましい。</p> <p>単に数字だけで判断するのではなく、実際の利用者の生の意向を踏まえると共に、まちのありか方等を踏まえた望ましい旅客流動の将来像まで考えて交通網を再編することが望ましい。</p>	

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		②事業 実施の 適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
合志市地域公共交通協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●現状と課題に関する検討 ●コミュニティバス乗降調査 ●方針、区域、期間、目標、指標に関する検討 ●実施事業に関する検討 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●広域移動手段の確保(路線バス主要2ルートへの接続強化、鉄道への接続強化、高速バスへの接続強化、国道3号線北バイパスへの乗り入れ、近隣生活圏への乗り入れなど) ●市内の円滑な移動の確保(路線の拡充、便数の拡充など) ●バス停の環境改善 ●公共交通の新規利用者の開拓 ●マナーアップの啓発 ●市民参加の促進 <p>以上を踏まえた上で、公共交通網形成計画を策定</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ●移動の決め細やかな支援→効率的で快適な公共交通のサービス提供 <ul style="list-style-type: none"> ・市内幹線ループの確立 ・循環ループの利便性向上 ・交通空白地へのデマンド型や予約制の導入 ・鉄道を活かす路線の実証実験の実施 ・御代志を中心とした編成への移行 ●市民の活発な活動を促す <ul style="list-style-type: none"> →より多くの市民に利用していただける公共交通 <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の強化 ・共通乗車券の導入 ・市民参加の促進 ●社会環境への負荷の低減→車社会から公共交通社会 <ul style="list-style-type: none"> ・乗り継ぎ環境の整備 ・車両更新の検討 ●健全な運営基盤→公共交通の持続可能性の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・運賃体系の変更 ・多様な収入手段の導入 ・各種調査の実施 	<p>調査結果に基づく分析は慎重に行うことが肝要。協議会においては、都市計画等との調和を図り、まちづくりや観光振興等と連携した最適な公共交通網の形成の案を検討していくことが望ましい。</p> <p>各交通モードを網羅して検討し、計画を作成することが肝要である。</p>	

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		②事業 実施の 適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
人吉・球磨地 域公共交通活 性化協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存資料等の収集・整理 ・現状把握のための調査(各種アンケート・ヒアリング調査) ・人吉・球磨地域公共交通網形成計画のとりまとめ ・協議会の開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の現状、交通関係の現状を整理、関係自治体の上位計画・関連計画を整理した。 ・地域住民アンケート、高齢者アクティビティダイアリー調査などのアンケート調査や鉄道／バス利用者などのヒアリング調査を実施し、地域住民、利用者の移動需要や意向を把握することができた。 ・調査結果をもとに地域に適した幹線路線バスの再編、支線の方向性をもとにマスタープランとして計画素案を作成した。 ・今後は協議会を開催し、関係者との協議、合意形成を経て、最終的に形成計画を策定する。 	A	<p>人吉球磨地域10市町村における、将来に渡り持続可能な交通体系の構築を目指して、路線バスの再編事業やそれに接続する支線の方向性をとりまとめ、各種交通の相互連携強化、交通拠点の機能強化、計画的なMM等の実施などを推進するための計画とする。</p> <p>また、平成28年度に幹線路線バスを対象とした再編実施計画を策定するための地域公共交通再編調査事業の活用を見込んでおり、平成29年度からは再編事業に係る地域公共交通確保維持改善事業や計画推進事業の活用を見込んでいる。</p> <p>なお、支線の詳細については、人吉市地域公共交通網形成計画や、その他町村が策定する交通計画等により検討を行うこととしている。</p>	<p>調査結果に基づく分析は慎重に行うことが肝要。協議会においては、都市計画等との調和を図り、まちづくりや観光振興等と連携した最適な公共交通網の形成の案を検討していくことが望ましい。</p> <p>広域な計画についても、幹線や支線を網羅的に捉えた上で公共交通網を形成することが肝要である。</p>	

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		②事業 実施の 適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
大津町地域公共交通会議	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域内の公共交通に関する現地調査 <ul style="list-style-type: none"> ・JR肥後大津駅 利用実態調査及び利用者ヒアリング調査 ・路線バス停間OD調査及び利用者ヒアリング調査 ・乗合タクシー利用実態調査及び利用者ヒアリング調査 ・個人宅訪問方式によるヒアリング調査(高齢者対象ミニPT調査) ・空港ライナーの利用実態の分析及び利用者ヒアリング調査 ・主要集客施設の利用者ヒアリング調査 ・事業者ヒアリング調査 ○地域の公共交通の役割・現状問題・課題の整理 ○上位計画等の整理 ○地域に適した交通及び目標の検討と目標実現のための施策の検討 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎的データの整理、現況調査などにより地域の公共交通の状況を整理した。 ○利用実態調査、利用者ヒアリングにより、時間帯別、場所別の移動需要を把握することができた。 ○地域に適した交通モード、ルート、利用年代、時間帯について検討し、協議会に諮るための計画素案を作成。 ○今後の協議会の検討を経て、地域公共交通網形成計画と最終的に取りまとめる。 	A	<p>○社会情勢の変化を見据えた公共交通体系の再構築 継続的に地域住民の通勤、通学、通院、買物などの移動手段を確保し、魅力的で快適な住みよいと思えるまちづくりを実現するため、移動パターンの地域性に応じた効率的で効果的なサービスを提供する交通体系の再構築を目指し、併せて、人口減少・少子高齢化社会を見据えた、コンパクトな都市機能への誘導などの社会情勢の変化を見据えた公共交通体系の再構築を目指す。</p> <p>○地域の拠点形成を支援する公共交通サービスの提供 大津町の重要な交通拠点であり、まちづくりの核として位置づけられているJR肥後大津駅において、鉄道、路線バス、乗合タクシー等の公共交通の結節機能の強化を図り、利便性の向上や、交流人口拡大による地域活性化を図る。</p> <p>○持続可能な公共交通体系に向けた利用促進 自家用車利用に依存した生活が浸透する大津町において、町民自らが公共交通を利用しようという意識を持つための公共交通の積極的な利用促進を図り、財政負担により運行している公共交通の必要性や維持に向けた理解を深めてもらうための情報発信・PRや実際の体験から学べる乗り方教室など、公共交通に触れる機会を増やす取り組みを行い、公共交通の利用意識の向上を図る。</p>	<p>調査結果に基づく分析は慎重に行うことが肝要。協議会においては、都市計画等との調和を図り、まちづくりや観光振興等と連携した最適な公共交通網の形成の案を検討していくことが望ましい。</p> <p>単に数字だけで判断するのではなく、実際の利用者の生の意向を踏まえると共に、まちのありか方等を踏まえた望ましい旅客流動の将来像まで考えて交通網を再編することが望ましい。</p>	

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における二次評価結果	備考
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針又は事業の今後の改善点	評価結果	
大分県地域公共交通活性化協議会	<p>【名称】 大分県地域公共交通網形成計画策定調査</p> <p>【計画策定事業の主な内容】 ○公共交通の現状把握・課題整理に向けた調査及び関係者ヒアリング ○バス路線の利用状況調査 ○沿線住民意向調査 ○国庫補助対象地域間幹線系統を中心とした広域的なバス路線の再編の方向性の検討 ○再編案に伴う地域全体の影響分析 ○沿線市町村の交通関連計画・都市計画等との調整 ○網形成計画のとりまとめ</p> <p>【調査事業の結果概要】 住民アンケート調査、高校生アンケート調査、乗降調査から、各幹線バス系統の時間帯や平日、土日祝日の違い、運行区間、利用者の年齢層などによる、利用頻度の違いが把握できた。 これらの調査結果を踏まえ、関係市、事業者と協議を行うことにより、「まちづくり政策」、「観光政策」、「教育政策」などの視点から、市や事業者等と連携して公共交通ネットワークの見直し案を検討している。</p>	A	<p>調査結果を受けた計画策定の方針： 【基本方針1】 まちづくり・観光・教育政策及び市町村と連携した「軸」と「拠点」の設定により住民の円滑な移動を支える公共交通ネットワークの構築 ・地域間交通・地域内交通による公共交通ネットワーク構築 ・移動ニーズを考慮した地域間交通のルート・ダイヤの再編 ・市町との連携による地域の移動を支える地域内交通の再編 ・市町のまちづくりや教育政策と連携した拠点化の推進</p> <p>【基本方針2】 公共交通の維持に向けたネットワークの再構築及び運行水準の適正化 ・地域間交通の再構築 ・移動ニーズに即した運行水準の適正化 ・車両と労働力の運用の効率化</p> <p>【基本方針3】 モード間の連携強化により圏内外を有機的につなぐ広域交通ネットワークの創出 ・モード間の乗継利便性の向上 ・地域内交通との乗継利便性の向上</p> <p>【基本方針4】 国内外からの観光ニーズに対応した公共交通利用環境の整備 ・広域的な観光を支える公共交通ネットワークの構築 ・来訪者にもわかりやすい情報提供 ・モード間の乗継利便性の向上</p> <p>【基本方針5】 新たな公共交通利用者確保に向けた利用促進 ・利用者・来訪者に分かりやすい情報提供 ・新たな公共交通利用者確保のための利用促進策の実施 ・すべての人が利用しやすい環境の整備</p>	<p>調査結果に基づく分析は慎重に行うことが肝要。協議会においては、都市計画等との調和を図り、まちづくりや観光振興等と連携した最適な公共交通網の形成の案を検討していくことが望ましい。</p> <p>広域な計画についても、幹線や支線を網羅的に捉えた上で公共交通網を形成することが肝要である。</p>	

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		②事業 実施の 適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
別府市公共交通活性化協議会	<p>【事業内容】</p> <p>1. 別府市における地域公共交通の現状・問題点等の整理 (1)別府市の地域特性の把握 (2)公共交通の現状の把握 (3)地域公共交通の現状・問題点等の整理</p> <p>2. 別府市に望まれている地域公共交通の姿の検討・整理 (1)上位計画、関連計画及び諸施策との整合性 (2)ニーズの把握 (3)別府市に望まれている地域公共交通の姿の検討・整理</p> <p>3. 別府市地域公共交通網形成計画(案)の作成 (1)基本方針と取り組みの方向性の検討 (2)計画の目標の検討 (3)計画の目標を達成するために行う事業の検討 (4)計画達成状況の評価方法等の検討 (6)別府市地域公共交通網形成計画(案)のとりまとめ</p> <p>【結果概要】</p> <p>●既存資料等を活用した地域や公共交通の特性等を把握することで、交通まちづくり政策の主たるターゲットや優先地域、まちづくり戦略との整合を図るために重要なバス軸や公共交通の利活用のために活用可能なリソースの創出が期待できる運行非効率路線などの把握ができた。</p> <p>●各種拠点でのヒアリング調査の分析により、交通拠点や生活拠点、観光拠点などの公共交通利用者ニーズ等の把握ができた。</p> <p>●全自治委員・民生委員、特定のバス不便地域の高齢者を対象にしたアンケート実施により、市の財政負担に対する市民意向や交通弱者の困っていること等の基礎データを得ることができた。</p> <p>●市内在住留学生へのグループインタビューを行うことで、住民と訪日外国人の両方の視点からみた公共交通の不安なこと・困っていること等の把握ができた。かつ、バス事業者にも加わってもらったことで、バス事業の現状問題についての留学生と共通認識を持ってもらうことができたほか、留学生からの建設的な意見によって、比較的早く簡単に講じることができるバスサービスの見直し内容を把握・共有化できた。</p> <p>●以上の調査結果等を踏まえ、現時点では、協議会において、①交通まちづくり政策の視点、②地域経営の視点、③公共交通ネットワークの視点で、将来的な別府市の公共交通の方向(案)について概ね了承を得ている。</p>	A	<p>○次回協議会において、素案審議予定。</p> <p>○前回協議会にて、「交通まちづくり政策の視点」「地域経営の視点」「公共交通ネットワークの視点」の3つの視点で方向付けることについて承認を得ている。</p> <p>○平成27年10月に策定した「べっぷ未来共創戦略」においても、地域公共交通網形成計画の策定により、公共交通に関する基本的ニーズの充足を目指すことを明記している。</p>	<p>調査結果に基づく分析は慎重に行うことが肝要。協議会においては、都市計画等との調和を図り、まちづくりや観光振興等と連携した最適な公共交通網の形成の案を検討していくことが望ましい。</p> <p>単に数字だけで判断するのではなく、実際の利用者の生の意向を踏まえると共に、まちのありか方等を踏まえた望ましい旅客流動の将来像まで考えて交通網を再編することが望ましい。</p>	

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		②事業 実施の 適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
日向・東臼杵 地域公共交通 活性化協議会	地域の現状や公共交通の利用実態・ニーズを把握すべく、アンケート調査やインタビュー調査等を実施した。また、調査結果を踏まえて、地域公共交通が果たすべき役割と課題を明らかにした上で、地域が目指す将来像の実現に向けた基本方針と目標を達成するために行う事業を整理した。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の変化に応じた持続可能な基幹的交通ネットワークの再構築 ・圏域住民の暮らしを支える支線交通の確保・維持 ・交通結節点・地域拠点等における乗り継ぎ拠点機能の充実 ・多様な主体が取り組む公共交通の利用促進策の展開 	<p>調査結果に基づく分析は慎重に行うことが肝要。協議会においては、都市計画等との調和を図り、まちづくりや観光振興等と連携した最適な公共交通網の形成の案を検討していくことが望ましい。</p> <p>広域な計画についても、幹線や支線を網羅的に捉えた上で公共交通網を形成することが肝要である。</p>	

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		②事業 実施の 適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
日南市地域公共交通会議	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通に係る現状(住民基本情報及び公共交通施設等)を空間データにより一元的に管理する地理情報システムを構築中 ・地域ニーズ把握を目的としたワークショップ実施に向け各地区自治会長への説明を実施 ・乗合タクシーのH28年度実証実験に向け事業者及び関係自治会長等による検討を実施 ・今後、各地区ワーキング及び協議会での検討を経て、地域公共交通網形成計画の基本方針を取りまとめる 	B	<p>住民が生活するうえで最低限必要な交通空白地帯における移動制約者の解消を第一義的に対応するため、市域における地域概況(人口分布、学校・医療介護施設等の分布)と公共交通との関連や、地域の移動需要を把握し、交通体系の再編をした場合の運行体制や利用状況も検証するとともに、住民と合意形成を図りながら市民にとっても使いやすく、多様なライフスタイルの提供を目指して、地域に根ざした交通体系を確立する。</p>	<p>調査結果に基づく分析は慎重に行うことが肝要。協議会においては、都市計画等との調和を図り、まちづくりや観光振興等と連携した最適な公共交通網の形成の案を検討していくことが望ましい。</p> <p>単に数字だけで判断するのではなく、実際の利用者の生の意向を踏まえると共に、まちのありか方等を踏まえた望ましい旅客流動の将来像まで考えて交通網を再編することが望ましい。</p>	

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		②事業 実施の 適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
薩摩川内市地域公共交通活性化協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆地域内の公共交通に関する基礎調査 ◆利用者移動実態及びニーズ把握 ◆住民移動の実態及びニーズの把握 ◆地域公共交通の課題と対応策の検討 ◆地域公共交通の基本方針決定と対応策の検討 ◆地域公共交通網形成計画のとりまとめ ◆地域公共交通活性化協議会の開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域内の現況調査や基礎データの整理によって、地域の状況を整理した。 ・利用者OD・ヒアリング調査、地域住民アンケート調査、高齢者行動日記調査、高校生・大学生・短大生通学実態調査、主要施設利用者ヒアリング調査、交通事業者ヒアリング調査や、地域住民の代表(地区コミュニティ協議会会長)の聞き取り調査を実施し、現在の地域ニーズ、そのニーズとの地域公共交通のギャップ等課題の整理を行った。 ・整理された課題への対応方針を検討した。 ・協議を行うため、薩摩川内市地域公共交通活性化協議会、同幹事会を開催した。 ・今後、協議会での検討を経て「薩摩川内市地域公共交通網形成計画」としてとりまとめていく。 	A	<p>①地域の实情に応じた持続可能な地域公共交通網の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ニーズや移動制約者等に十分配慮した地域公共交通の運行 ・地域の实情に応じた地域公共交通網の構築 <p>②多様な交通モードが有機的に連携した地域公共交通網の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の地域公共交通を活用した利便性・効率性の向上 ・多様な交通モードの有機的な連携 <p>③まちづくりと連携した地域公共交通ネットワークの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「多極ネットワーク型コンパクトシティ」の実現に向けた、生活サービス機能等が充実した都市拠点及び地域拠点間の地域公共交通によるネットワーク化 <p>④地域内外の交流を促進する地域公共交通網の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客や地域外からの来訪者の需要やニーズへの対応 <p>⑤地域公共交通の利用環境の向上による利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運行ダイヤの改善 ・情報提供 ・利用環境の向上 <p>⑥連携・協働による新たな地域公共交通のシステムづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民・交通事業者・行政による連携・協働 	<p>調査結果に基づく分析は慎重に行うことが肝要。協議会においては、都市計画等との調和を図り、まちづくりや観光振興等と連携した最適な公共交通網の形成の案を検討していくことが望ましい。</p> <p>地域の公共交通網を網羅的に検証し形成していくことを、検討することが肝要である。</p>	

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		②事業 実施の 適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
霧島市地域公共交通会議	<p>【事業内容】 1. 地域公共交通の現状把握・課題の整理 (1) 関連する法令・計画等の整理 (2) 本市の地域公共交通に関する地域特性の把握 (3) 公共交通機関利用者における移動実態及びニーズ(要望・需要)の把握 ①市街地循環バス、ふれあいバス利用者アンケート ②ふれあいバスOD調査 (4) 住民移動の実態及びニーズ把握 ①全自治会長アンケート ②高校生アンケート ③特定地区(交通不便地域等)の「高齢者のみ世帯」アンケート ④交通拠点(国分駅・隼人駅・鹿児島空港)利用者ヒアリング ⑤観光拠点(丸尾・霧島神宮)利用者ヒアリング ⑥宿泊施設事業者アンケート</p> <p>【結果概要】 ●基礎的データの整理、現況調査などにより、本市の公共交通の現況を整理した。 ●市内には、①バスの運行本数が比較的少ない地域や、②国分地区までの外出に公共交通を片道2回以上乗り継がなければならない地域、③地区の拠点までふれあいバスで移動したいのにバス停まで遠い地域(ふれあいバス停500m圏域外)があることが判明した。 ●宿泊観光客へのサービス向上と公共交通の利用促進を効果的に実現できる“多様な公共交通との連携策”について実現可能性があることが判明した。 ●今後の地域公共交通会議の検討を経て、「霧島市地域公共交通網形成計画」として最終的にとりまとめる。</p>	A	<p>基本方針及び基本目標を踏まえ、具体的事業内容等について検討を行うこととする。</p> <p>【基本方針(案)】 霧島市が目指す“暮らしやすい・訪れたいまちづくり”に向け、高齢者や子育て世代、学生等の交通弱者にやさしい交通環境の実現と次世代に継承できる交通まちづくりを前提に、多くの人をまちに呼び込み、“誰もが分かりやすく、安心してお出かけできる”地域公共交通網の形成を目指す。</p> <p>【基本目標(案)】 ① お出かけを楽しむため、そして、各種拠点の機能を維持・強化するため、各地区の中心部や都市機能が集積した市街地部への“おでかけ”の増加に資する効果的な地域公共交通網の構築 ② 限られた資源・予算で最大限の効果を上げる、効率的・効果的な地域公共交通の運行 ③ 地域公共交通の持続的な運行のため、利用促進と需要創出に地域全体で取り組むことで地域公共交通を「創り上げ、守り、育てる」気運の醸成を図る</p>	<p>調査結果に基づく分析は慎重に行うことが肝要。協議会においては、都市計画等との調和を図り、まちづくりや観光振興等と連携した最適な公共交通網の形成の案を検討していくことが望ましい。</p> <p>地域の公共交通網を網羅的に検証し形成していくことを、検討することが肝要である。</p>	